

びるっぱ

Vol. 429 **4**

表紙の写真

新人さん、ようこそ近森へ!



コロナ時代の新人2期生を迎えて
 近森病院附属看護学校5期生 卒業式
 ノーリフトの推進について
 ~腰痛を防げ!~

75th
 anniversary
 CHIKAMORI
 1946~2021

近森病院 | 近森リハビリテーション病院 | 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

ゴールデンウィークは
 暦通りの診療体制
 です。

4月	28日 (木)	29日 (金) 昭和の日	30日 (土)	5月	1日 (日)	2日 (月)	3日 (火) 憲法記念日	4日 (水) みどりの日	5日 (木) こどもの日	6日 (金)
	通常診療	救急体制での診療				通常診療	救急体制での診療			通常診療

コロナ時代の 新人2期生を 迎えて

はじめに

今年の新人は、新型コロナで学生時代の大切な2年間の対面授業や臨床実習に大きな影響が出た、まさにコロナ時代の新人2期生と言えます。十分な実習が出来ず、臨床現場に上手く入っていきけるかどうか、心配している新人も多いのではないかと思います。近森会グループ(以下、近森)では入職してから充実した研修体制を取っているのので、安心してチームの一員になるよう頑張ってください。

コロナ禍の影響以上に激変する 高知の地域医療

日本の医療は高齢化と医療の高度化で、手間のかかる高齢患者が増えたことで業務量が増えるとともに、高い医療の質が求められるようになり、医師はじめ医療専門職の充実と医療レベルの限らない向上が求められるようになりました。

さらには診療報酬改定の度に重症度、医療・看護必要度が厳しくなり、7:1の看護師数さえ揃えていれば診療報酬が入ってくるストラクチャー評価から、必要な業務すべてを行い、重症の患者さんを数多く集め、早く治して、自宅へ帰さないで7:1の診療報酬が入ってこないアウトカム評価に大きく変わってきています。

そのため、新型コロナの感染症も加わり、高知県でも急性期基幹病院の在院日数は年々短くなり、稼働率が低下したことで空床が増え、急性期基幹病院に急激に患者さんが集まるようになっていきました。5年前には一般急性期病院で100床以上の病院は16病院あり

社会医療法人 近森会 理事長
近森 正幸





ましたが、現在は11病院、実質8病院とわずか5年間で半分になってしまいました。慢性期医療の介護療養病棟は2,600床が介護医療院という施設にほぼ転換しましたし、病院や診療所の廃院も多く、高知市内でも建物が壊されマンションなどに変わっている姿があちこちで見られるようになりました。

このことは皆さんの働く医療現場が限られてくることを意味しており、近森は専門性の高い医療人に成長するための環境が整った、高知でも限られた職場であることが言えると思います。

チーム医療で いきいきとやりがいを持って働こう

現在、医師の働き方改革で医師の長時間労働が出来なくなり、大学病院や国公立病院で行われている医師、看護師だけで医療を行う少数精鋭の医療ではやっていけなくなっています。医師が医師しか出来ない業務、看護師が看護というコアの業務に絞り込み、医療の質と労働生産性を上げ、薬剤師やリハビリスタッフ、管理栄養士、臨床工学技士、メディカルソーシャルワーカー、歯科衛生士といった医療専門職とチームで医療を行う、多職種による多数精鋭の病棟常駐型チーム医療でなければこれからの医療は出来なくなっています。

皆さんが入職された近森は質、量ともに全国一のチーム医療を展開している病院です。このようなすばらしい職場で専門性を高め、患者さんにとっていい医療が実践できるスタッフに成長して下さい。

地域で患者さんを支えよう

近森は、高度急性期から急性期、回復期リハビリ、在宅サポートと県民、市民が生命にかかわる病気にかかっても早く治して、障害が残ればリハビリで可能な限り住み慣れた地域に帰っていただくよう、グループ全体で努力してきました。

さらには、病状が落ち着けば、かかりつけの先生方に逆紹介して地域で診てもらい、悪くなればまた近森へ紹介していただくという地域医療連携を20年以上も前から徹底して実践し、長年にわたり地域の先生方と共に患者さんを支え続けてきました。

さいごに

近森は医師、看護師ばかりでなく、医療専門職や事務、クラーク、アテンダント、清掃のスタッフに至るまで、みんなで患者さんに早く良くなって住みなれた地域に帰ってもらおうと心を一つにして働いている素晴らしい職場です。「コロナ時代の新人だから、さすが!!」とみんなから評価されるよう頑張ってください。そして、医療人というやりがいのある仕事を通じて人間性を高め、皆さんの人生がいきいきと充実したものになることを祈っています。



2021年度
近森病院附属看護学校 卒業式



近森病院附属看護学校
2021年度・第5期生

卒業式

2022年3月4日

誠意を持って
社会に向きあう

学校長 山崎正博



この学校を選んで 本当に良かった

近森病院附属看護学校 3年
泉 舞衣子
いづみ まいこ



学校生活3年間は振り返って
みると本当にあつという間でした。

学生生活で1番大変だった「臨地実習」では、最初は何をしたら良いかわからず、戸惑いを隠せず、もどかしい思いをするばかりでした。しかし、2年次、3年次と学年があがるにつれ、戸惑いも段々と自信に変わり、自主的に動くことができるようになり、とても良い経験となりました。

コロナ禍で学校行事が中止になったり、様々な制限がある中での学校生活でしたが、5期生の持ち前の明るさにたくさん励まされ、楽しく過ごすことができました。

実習で受け持たせていただいた患者さん、指導者の方、先生方、仲間から学んだことを胸に1日1日を大切に、精進していきます。

私は近森病院附属看護学校を選んで本当に良かったです。

自慢の教え子、 36名が巣立ちました

近森病院附属看護学校 専任教員
川村 佳代
かわむら かよ



5期生は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、授業や実習の変更を余儀なくされましたが、各関係部署のご協力のもと無事に卒業の日を迎えることができました。彼らは、静かな印象ですが、一人一人は自分をしっかり持ち情にあふれた学生達でした。実習などで壁にぶつかり涙した学生もいましたが、持ち前のバイタリティーで逃げずに乗り越えることができました。このように「やるときはやる5期生」卒業式においてもその底力を見せてくれ凛としてとてもかっこよかったです。コロナ禍のため、企画課の皆様には、YouTube配信にご尽力いただき、ご列席・ご視聴して下さった方々から「よい卒業式だった」とお褒めのお言葉もいただきました。

彼らは、4月からそれぞれの場所で、期待と不安を胸に、新しいスタートを切ることとなりますが、『自分に正直でたくましく、人の痛みわかる優しい看護師』になると信じています。





▲ 会場裏で卒業式を同時配信する企画課スタッフ



▲ 優秀賞受賞の皆さん

「先生、私、それ食べると痛くて調子が悪いんです」

免疫代謝学



近森病院
糖尿病・内分泌代謝内科
リウマチ・膠原病内科 部長
公文 義雄
くもん よしたか

訳があつての「糖尿病・リウマチ科」

当科は通称「糖尿病・リウマチ科」としてお声をお掛け頂くが、偶然ではなく、訳あって同じフロアで診療させて頂いている。糖尿病治療薬は次々開発されてはいるが、世は飽食の時代、食は糖尿病治療の基本であり、適度なエネルギー節減に繋がる糖質制限は賛否両論あるが有用な治療法である。

「免疫」と「代謝」の関係性

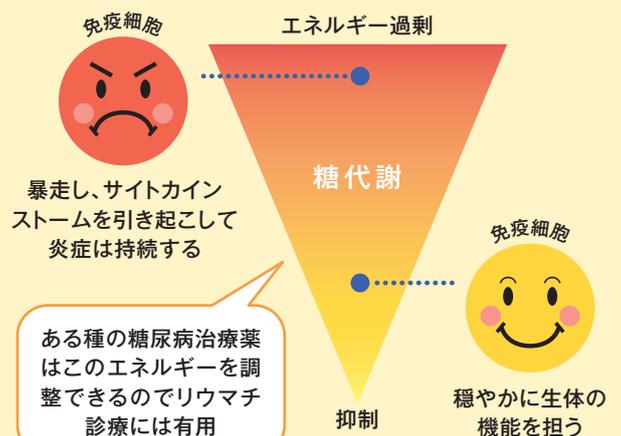
ところで、免疫代謝学なる分野が確立されていることはご存じだろうか？ 免疫と代謝の接点の領域である。細胞は分化して成長を遂げ臓器として統合的に機能するが、機能を違えて疾病を発症した際には、細胞の代謝を抑制してエネルギー源を断つことで細胞、ひいては臓器の機能を正すことができる。最近、ある種の免疫細胞の糖代謝酵素を完全に抑制することで免疫難病を発症しないことが実証された。

関節リウマチは糖代謝に配慮を

免疫応答の暴走は糖代謝の制御により抑えられる、つまり、糖尿病の治療次第で免疫難病も良くなるのである。免疫難病の特効薬であるステロイド薬は炎症を抑え有用であるが、糖代謝との相性は良くなく、使い方次第で両刃の剣となる。身近なところで関節リウマチは糖尿病を合併し易く、糖代謝に配慮した治療が必要であり、これを無視しては関節リウマチの収まりが悪い。

先日、表題の訴えを外来で耳にした。食は生の源であるが、医食同源、病を創るのもまた食である。

エネルギーは糖質、蛋白質、脂質から得られ、細胞はそれらを活動の源にしている



腰痛を
防げ!



法人全体のノーリフトの推進について

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 科長 兼 理学療法科 科長
高芝 潤 たかしぼ じゅん

2000年の介護保険制度がスタートして以降、介護労働者の増加を上回る速度で腰痛労災が増加しています。この状況を受け、2013年に厚生労働省は「職場における腰痛予防対策指針」を改定し、腰痛発生の作業の一つとして「福祉・医療分野等における介護・看護作業」が明記されました。この状況に対して事業者は、腰痛発生の要因を把握、リスク評価を行い、リスクの回避・低減措置をしなくてはなりません。

今回、近森会グループでの腰痛発生予防を目的に、安全衛生委員会の下部組織としてノーリフトケアワーキンググループを各

施設の代表者を中心に設置、法人全体での取り組みを開始します。その活動内容は、腰痛のリスク管理として作業環境管理、作業管理を目的に研修の実施や福祉用具導入の推進を行なっていきます。介護・医療分野での腰痛発生においては、特に人力による移乗介助や排泄介助等の抱え上げが課題となります。福祉機器を有効に使い、身体に負担のかからない作業の習熟と健康管理としてのストレッチなどの導入を進める必要があります。適切で正確な腰痛予防対策を理解し、腰部の負担をできるだけ取り除き、近森会グループの腰痛予防を推進し、健康経営につながるよう活動していきますのでご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



移座えもんグローブ



移座えもん

新人看護師 振り返りの会

2022年2月13・17日



つながりの中で
成長する

近森会グループ看護部教育委員会
近森リハビリテーション病院
教育担当シニア看護師長

中村 里江 なかむら りえ

この会は、新人看護師がこの1年のお互いの成長を知り、2年目に向けての目標を共有する研修です。3つの病院の新人が一堂に集まれることを楽しみに企画していましたが、感染状況から各院に分かれての開催となりました。

近森リハビリテーション病院ではオンラインで研修を行うことができました。対面での交流には及びませんが、新人からは「みんなの顔を見て話ができてよかった」との声が聞かれました。先輩方からはメッセージ色紙が贈られました。自分の成長に不安をもっている新人にとって、安心と感謝、そして「つながり」を感じる時間となったようです。まだまだ厳しい状況ですが、新人がつながりの中で安心して成長していけるよう支えていきたいと思いました。



▶一人ひとりパソコンで参加



熱烈応援 昇格人事



倉敷からやってきた
元気なおじさんです!

臨床検査部
心血管カテーテル室 室長
清水 速人 しみず はやと

倉敷中央病院で38年間、恩師の光藤和明先生のもと生理検査業務と心血管カテーテル業務に携わってきました。生涯臨床に関わり患者さんのために最善の医療を提供する姿を常に近くで見させて頂きました。今回、近森病院に勤務させて頂くチャンスを川井副院長に頂き光藤イズムを少しでもコメディカルの皆様に伝えられればと考えています。たかがおじさん、されどおじさんと言われる存在になりたいと思います。



その一歩を支えたい

高知ハビリテーリングセンター
就労・相談部アルベータ
就労移行・就労定着 主任

瀧石 公正 たきいし こうせい

就労移行の利用者にとって、一般就労は一つのハードルであると共に将来への大きな一歩であると思います。その挑戦を支える部署の主任であることを自覚し、日々精進していきたいと考えております。また、チームの皆と力を合わせ、働きやすい部署を築いていきたいと思っておりますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



マイナスからのスタート

高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部 障害者支援施設
自立訓練(生活訓練)・生活介護
サービス管理責任者

谷岡 真代 たにおか まさよ

このたび、栄養士からサービス管理責任者へ配属され、その職務の重さと責任の大きさに身の引き締まる思いがいたします。

経験値の少なさに大きな不安もありますが、先輩方のお力を借りながら、一人ひとりの強みや可能性を引きだすことができればと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



ハッスル研修医

研修医1年目を終えて

初期研修医1年目 森田 耕吉
もりた こうきち

初期研修医1年目が終わろうとしています。右も左もわからない去年の4月と比べて、病院での過ごし方にも少しずつ慣れてきたこの頃です。この1年間で自分の成長を感じられたときは、夜間に担当患者さんの問題で呼ばれ、自分で何かしら

のアクションをとり良い結果を得られたときです。成長した!ととてもうれしく思います。(こういうのはごく稀で、ほとんど指導医の先生に助けていただいています笑)専門性の高いスタッフの皆様に囲まれたこの病院での研修を無駄にしないよう、残りの研修1年間を通して、こうした機会を増やせられるように頑張っていきたいです。

話は変わりますが、去年から新しい趣味としてキャンプをはじめました。道具をそろえましたが、コロナウイルスの関係であまり行くことができなかったため、今年度こそはたくさんいけることを願っています。



ネスレ日本株式会社様より

- キットカット
- 経口補水液



忙しく緊張が続く毎日、ほっと一息つける時間があり
がたく、医療従事者を労わってくださるお気持ちが明日も
頑張る励みとなりました。皆様の思いに報いるためにも、
思いをひとつに頑張ります。温かいご支援をありがとうございました。

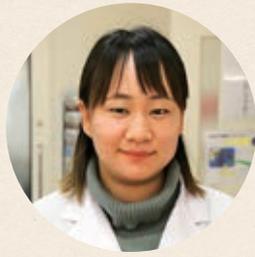


リレーエッセイ

ドライフラワー

総務部総務課
健康管理センター 保健師

坂本 悠
さかもと はるか



わたしは、ドライフラワーが好きでよく集めています。部屋に癒しが欲しい、花のある生活をしたいと思い、まず花瓶からと買いのものに行った雑貨屋さんで見つけたドライフラワーに一目惚れしたことがきっかけでした。

花については全然詳しくないので、花の名前も分からないことがほとんどですが、直感で可愛い!好き!と感じたものを集めています。シンプルなものからブーケやリースになっているものなどいろんなタイプのものを集めていて、今では部屋のいたるところにドライフラワーがあって彩りを与えてくれています。



ドライフラワーには、生花のような瑞々しさや鮮やかさはありませんが、ほんのりとした絶妙な色合いが何とも言えません。また、水替えなど手入れの必要がないので、花のお世話に自信がなくても問題ありません。買った当時の状態を長く楽しむことも素敵なポイントです。なるべく簡単に部屋の雰囲気を明るくしたい人にオススメです。



私の趣味

アーチェリー

近森病院 透析室
看護師

熊谷 美智子
くまがい みちこ



高校生になった時に、先輩からちょっと見てみたい?と誘われたのが弓道場でした。中学でバレーボール部だった

私は入るつもりはなく先輩に断れないまま行き、的に当たった時の矢の鋭さと音に感動したのを覚えています。

すぐに入部し放課後は道場に行き、的に向き合っていました。高校を卒業し看護師になるとそれなりの人生がすぎて弓道の事は頭の隅っこに置いたままになっていました。55歳を過ぎた頃、膝の手術をしていた私は何か趣味をと思った時弓道が浮かび、そのタイミングで主人が「アーチェリーしたら?俺もやるから」と言

てくれました。アーチェリーはやった事がないけど、弓道場での事が蘇るような感動がありました。型がやはり違い、難しい、でも奥が深い。休みの時は夫婦で出かけています。ちなみにゴルフも始めました。こちらストレス解消にいい(まだ打ちっぱなしですが)笑。色々多趣味になりましたが、やっぱりアーチェリーが一番かなと思いつき、書く事に決めました。



FREE 私のまるまる

〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました



私の「猫たちとまったり過ごす田舎生活」

診療支援部医事課

石井 浩子 いいひろこ



若い頃は毎日、車で約1時間弱かかる通勤や家の近くにお店も何も無い不便な田舎が嫌だった私ですが、今では仕事を終え家に近づくにつれだんだん山も緑も多い景色になり、何か空気もゆったり感じられる田舎での暮らしを、けっ

う気に入っています。冬にはたまに雪が積もる日もあるけど、休日には私にとって日本一いや世界一かわいい大好きな猫たちとまったり過ごす田舎での生活が自分には合っている気がします。





歳時記



ひな祭り (3月3日)



近森病院
医療福祉部
森田さんちのひな祭り

つぶらなおめめが可愛い森田さんちのお姫様。ケーキを頬張りながらも真っ直ぐカメラ目線で、はいチーズ!



帆乃花ちゃんの健やかな成長を願ってます!

食堂に新しい風を ～リニューアルしました～

2022年3月10日

管理棟8階職員食堂がリニューアルしました。

食堂を運営するエムサービス株式会社様にお話しを伺ったところ、最近流行りの「カフェ風」を取り入れ、メインカラーの黒が重くならないように、近森の自由な気風や窓から見える山々をイメージした流線形のデザインに格子のリメイクをするなど工夫されたそうです。



弊社ではお料理はもちろん、食事をする環境も大切に考えています。新しい食空間を提供することでお客様にワクワクした気持ちでご利用頂ければと思います。



エムサービス株式会社
IDSセンター デザイン室
シニアスーパーバイザー
廣野 寿明氏

演題募集

第5回 近森会グループ 学術集会2022

2022年8月6日(土) AM

テーマ『持続可能な地域医療』

演題募集期間

2022年3月1日(火)～4月26日(火)



大会長 塚田 暁
(消化器外科 部長)



看護学校通信

オンラインでの精神看護学実習

近森病院附属看護学校 専任教員 上総 満高
かずさ みつたか

私が担当する精神看護学実習は、5日間の病棟実習を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、1月末からオンライン実習に切り替わりました。オンライン実習は初めての試みでしたが、何とか学生に学んでもらおうと総合心療センターの臨床指導者さんにご協力いただき、Zoomでカンファレンスを行いました。学生たちは、「精神科は怖いところ」というイメージを持っていましたが、臨床指導者さんの看護観に触れるうちにイメージは変わり、カンファレンス終了後は「実習に行きたかった」ととても残念そうな姿が印象的でした。



堀尾主任が参加中



カンファレンスの様子

編集室通信

若い頃、先輩は恐い存在であった。特別な理由はない。存在そのものが恐いのである。今その立場になってみたらなんと、こちら側も緊張しているではないか。通じない冗談で空振りし、これハラスメントじゃないよねと焦るのである。後輩諸君、どこが分からないのか発信してくれると先輩は助かります。ちゃんと説明するからね。 にゃ～ご

診療数 令和4年2月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 15,978人
新入院患者数 442人
退院患者数 531人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 19.21日
地域医療支援病院 紹介率 68.19%
地域医療支援病院 逆紹介率 307.58%
救急車搬入件数 178件
うち入院件数 125件
手術件数 211件
うち手術室実施 149件
うち全身麻酔件数 107件

近澤 香奈

Kana Chikazawa

近森病院 臨床検査部 技師長代理

CVIT認定

心血管インターベンション技師

JHRS認定心電図専門士

聞き手／ひろっぱ編集部



夏はよらいっ
仲間と歩幅を合わせて歩む
臨床検査部のニューリーダー

近森病院への就職を母校に報告した時、担当の先生から「1年持つだろうか」と言われた。「控えめな性格の学生だったので心配されたのだと思います」。それはまさに先生の取り越し苦労となり、気が付けば入職20年を超え、昨年12月から臨床検査部のリーダーとなった。

約33年に渡り部をけん引してきた今村技師長の後を引き継いだ近澤技師長代理。プレッシャーはいかばかりかと問うと「今村技師長は、部下の話にしっかり耳を傾けて助言も的確。私たちが働きやすい環境を整えてくれました。改めて守られていたことを実感しています。私は、引っぱっていくタイプではないので皆の意見を聞き入れてサポートできる長になりたい」と明快に語ってくれた。いさぎよい言葉からは、とっくに覚悟を決め、歩み進めているのが伝わってきた。

臨床検査技師になったきっかけ

出身は四万十町、窪川。入退院を繰り返す祖母のお見舞いに通ううちに病院で働きたいと考えたという。高校3年生の時、職業を調べる中で臨床検査技師という仕事に興味を抱いた。「私は石橋を叩いて割ってしまうほどの慎重派なのです。化学や調べものも得意でした。それと、看護師より検査技師が向いていると両親からも助言をもらって。看護師は忙しくハードな印象だったので…。看護師には憧れがありますね」と軽やかな口調で過去を振り返った。

ダンスとライブ、演劇鑑賞で鋭気をチャージ

近澤技師長代理の「夏」と言えばよさこい。「毎年、完全燃焼するので『今年で終わり』と思いますが5月位になるとウズウズしてきて結局踊っています」と、かれこれ20年近く出場している模様。チームは受賞常連の「京町・新京橋「あびすしばてん連」」。群舞の美しさを誇り練習もハードなチームである。連続出場となればダンス技術も上級者級だろう。冬の間もジムに通いエアロビやJ-POPエクササイズで汗を流す。単純に踊りが好きだけでなく陰で努力をするタイプかもしれない。

ダンス以外には、ライブ・演劇鑑賞に親しむ。今までライブに行ったアーティストは、ミスチル、ドリカムからジャニーズ系まで幅広い。有名ミュージシャンのライブはファンクラブに入っていないければチケットは入手困難である。「誘ってもらっているので行けています」と楽しげ。もちろん本人もファンクラブに入って



よさこいは、「さまざまな職種や世代の方と力を合わせていくのが楽しい」そうだ。



プライベートでの、もう一つの楽しみが旅行。上は目黒川クルーズで撮影した桜とビル群。「誘われ旅行でしたが想像以上に美しく感動しました」。

いる。その数なんと「10未満5以上」。ちなみに、誰のファンクラブなのかは恥ずかしいので秘密にしておいてほしいと懇願された。演劇もあらゆるジャンルをたくさん見ているようで、いつかは歌舞伎座で歌舞伎を見たいという。

皆とともに、一歩ずつ、コツコツと

自他ともに、おとなしかったと認める女学生が、近森病院でキャリアアップを重ね、趣味を通じて、さまざまなジャンルの友人ができ新しい世界を広げた。インタビューではシャイな部分も見え隠れしたが、しっかりと意思を持ち、さばさばとした印象が残った。仕事はしっかり、趣味の世界にも邁進されている女性はやはり前向きである。最後に、自部署について尋ねると「皆が仲良くなつ、チーム医療で求められるエキスパートとしての成長を求め切磋琢磨できる部署」とのこと。近森イズムが感じられた。

